

## 《 一昨年引き続き、担ぎねぶたと生け花が再び融合!! 》

～ いけばな古流松藤会青森支部展 2007 花・ねぶた・華 ～

一昨年の4月、東京の上野松坂屋デパートで「いけばな 2005 古流松藤会展」が開催され、当会が制作した一人担ぎねぶた「一条戻橋の鬼女」と生け花を組み合わせた作品「北炎」が古流松藤会青森支部から出展された。ねぶたの横には青々とした大王松・赤桃色のアンサリユウム・黄色い花のレンギョウなどが生けられ、天井からは和服の生地が吊り下げられた事による陰影が作り出され、神秘的な雰囲気を感じさせるような作品であった。

そして今年、「古流松藤会創立90周年記念協賛・青森支部展 2007～花・ねぶた・華～」が5月26日・27日の両日、青森駅ビル「ラビナ」5階のラビナホールで開催される事となり、再び担ぎねぶたと生け花が融合する。今回の生け花との融合は、昨年のねぶた運行前からあった話で、いよいよ開催かぁ...という感じである。生け花展に使うねぶたは、昨年制作の四人担ぎねぶた「関羽」という事で、先月末まで少しずつ準備を進めていたが、ラビナ1階から5階ホールまでの搬入経路があまりにも狭く「関羽」をどうやっても搬入出来ないという事が判明し、急遽、一人担ぎねぶた「夏侯惇」を使用する事になった。

生け花展の開催まで40日あまりとなり、これから「夏侯惇」の補修や作品を飾る展示ブースの製作に取り掛かり、搬入日である5月24日までの完成を目指す。

さて、今回の生け花展のテーマは「花・ねぶた・華」。このテーマ、古流松藤会青森支部の葛西真弓支部長の話によると、「花とねぶたが融合し、華となるという意味で、ねぶたが無いと始まらないテーマである。」との事。

既に今年の運行に向けての部品制作も始まり、ゴールデンウィーク明けからは本格的な制作に入る。生け花展に向けての準備と並行作業になり、製作所内もやや手狭となるが、生け花展の成功を願い準備を進めたい。

【記：高谷俊幸】



【古流松藤会青森支部作品「北炎」 / 平成17年4月・上野松坂屋にて】

### 古流松藤会とは...

古流そのものは江戸時代中期、町民文化の隆盛の中で生まれ、その古典華の伝統は、天・地・人和の「生花」様式で、古流松藤会は1916年にその伝統を軸に結成され、現在に至っています。

様々な植物あるいは人工花材を扱って創作する個性的な表現の「現代華」の研究も積極的に展開し、「伝統の生花」と「創造の現代華」の両様式をもって、あらゆる場面のいけばな制作活動を展開しています。北は札幌から南は沖縄、海外では台湾にも支部があり、支部総数は60支部近くになります。

《いけばな 2005 古流松藤会展パンフレット 家元：池田理英氏の挨拶文から一部抜粋》

## 《 早くも今夏運行の五所川原立佞武多がお目見え！ 》

～ 「人間の弱さ」と「心の強さ、大切さ」を表現 ～

先月中旬、五所川原市で早くも今夏運行の立佞武多が完成し、立佞武多の館にお目見えした。今年の題材は「芽吹き心荒ぶる」で、テーマは「水鏡に身をうつして...」。左手に普通の顔をした善人の面を持ち、足元の水面には自分自身の内面の顔が映る。そして、自分の弱さが悪(悪)の芽となり、こめかみから芽生え、やがて芽が角となり鬼に化そうとする前にその芽を自分自身で摘み取ろうとしている場面の立佞武多である。制作者は立佞武多の館に勤務する齋藤忠大氏。平成16年の「杙」以来2度目の制作となる。制作者の齋藤氏は「善人の面をはずした時に現れる人間の弱さや内面の悪(悪の芽)を克服する(自分自身で摘み取ろうとする)強い心の大切さをこの立佞武多に託している。」という。

この立佞武多、昨年9月末に下絵が発表され、11月下旬に骨組みと土台の色塗りが終了。昨年未だに紙貼りを終え、今年1月に墨入れ作業が始まり、2月上旬から色付けを行い、3月中旬に完成した。完成した立佞武多は高さが約22メートル、重さが約18トンあり、18のパーツに分かれている。

「芽吹き心荒ぶる」は、今年8月4日から8日までの祭期間中、一昨年制作の「炎」、昨年制作の「絆」と共に五所川原市内を堂々運行する。

制作環境が整っている事もあるからなのか、立佞武多の館では常に何らかの佞武多を制作しているようだが、観光資源とはいえ、今夏運行の立佞武多が昨年10月から制作が始まり、今年3月中旬には完成というのは少し気が早いような気もする。また、今夏の運行には、機動戦士ガンダムの立佞武多も運行されるという事で、全国から注目されるのではないだろうか。

【記：高谷俊幸】

## 「アムロ、行きまーす！」

なんと今年の夏に「ガンダム」登場！

五所川原立佞武多では毎年さまざまなキャラクター(平成16年にはドラゴンボール、平成18年には桃太郎電鉄)の立佞武多が出陣しているが、いや～今年は見ものです！どう言った経緯でガンダムが出陣するのかの詳細については、新聞記事などでしかわからないが、幕張メッセ(千葉市)で行われる「キャラホビ2007」のイベントを運営する実行委員会が「立佞武多は日本最大のフィギュアではないか」と企画・立案したらしい。誰が製作するのかはわからないが、予定では高さ11メートル、重さ1トン。4月から「立佞武多の館」で製作され、7月末に完成予定らしい。

ガンダムフリークの僕としては「是非、完成した立佞武多を見てみたい！！」の一言につきる。3月29日付の東奥日報によれば、『ライフルとシールド(盾)を持ち、空母から発進する場面を再現する。最も人気の高い初期版の「ファーストガンダム」というキャラクターを採用した。』とある。マニアックな言い方をすれば、空母とは【ペガサス級強襲揚陸艦ホワイトベース】のことで、ファーストガンダムとは、【RX-78-2ガンダム】となる。発進する場面...と、細かいところまで言うとキリがないのでこの辺でやめておくけど、なんにせよ今年の立佞武多運行からは目が離せそうにない。でも、自分たちの担ぎねぶた運行や仕事の関係でどうも見に行けそうにない...ニュースで我慢するしかないさそう...(泣)

【記：小笠原広昌】

発行：青森担ぎねぶた実行委員会事務局広報部 編集責任者：高谷俊幸 編集者：小笠原広昌・佐々木誠治・飯田寛子 事務局住所：〒030-0131 青森市問屋町1-18-40 TEL：090-9637-5117(事務局：小笠原) Home-Page：http://homepage2.nifty.com/katugi mail：ao_katsuginebuta_ss511022@mbp.nifty.com	編集後記 今年も花粉にノックダウンです。いつの頃からかこの花粉症に悩まされ、早十何年...辛い時期です。ティッシュの使用量は尋常ではなく、ゴミ箱は常に溢れています...あんまり鼻をかみすぎて鼻は赤くなるし、擦れて痛いし、ついには目も痒くて痒くて...皆さんは花粉症に悩まされたりしてますか？(小広)
---	--